

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別: 通所介護

事業所名(施設名): 南牧村デイサービスセンター野辺山

第三者評価の判断基準

- a・・・着眼点をすべて実施している状態
 - b・・・着眼点が一つでも実施していないものがある状態
 - c・・・着眼点を一つも実施していない状態
- 実施していない状態
実施している状態

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	1 支援の 基本	利用者一人ひとりに応じた 一日の過ごし方ができるよ う工夫している。	b)	1	利用者の心身の状況、ADL、睡眠・食事・排せつ、暮らしの意向、これまでの環境(物的・人的)、生活習慣等の把握をしている。	利用者の家庭での生活や心身状況を把握し「私は～したい」の意向に副った過ごし方ができるようにしている。 ボランティア等の参加については、入所施設に併設する通所事業所であることから、行事を含め一体的に進めており、その中で、多くの地域住民と接することを楽しんでいる。 デイサービス独自の小グループでの活動や、地域住民の参加や交流を図る機会・内容等について、プログラムの工夫を期待したい。
				2	利用者一人ひとりの暮らしの意向を理解し、利用者一人ひとりに応じた生活となるよう支援を行っている。	
				3	利用者一人ひとりに応じた生活となっているかを検討し、改善する取り組みが組織的に継続して行われている。	
				4	サービス提供場面において、自立に配慮した援助を行っている。	
				5	自立、活動参加への動機づけを行っている。	
				6	利用者の趣味、興味、希望を把握し、活動に反映するとともに複数のメニューを用意している。	
				7	家族、ボランティアや地域住民の参加を得ることなどにより、活動の多彩化を図っている。	
				8	買い物、外出、地域の行事への参加など社会参加に係るプログラムを導入している。	
				9	利用者の家庭での生活、心身の状況を考慮し、利用者一人ひとりに配慮して活動に参加できるよう工夫している。	

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1	利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	a)	<p>10 利用者の考えや希望を十分に聴き取れるよう、さまざまな機会、方法でコミュニケーションを行っている。</p> <p>11 利用者の思いや希望を聴きとったり読みとったりして、その内容をケアに生かしている。</p> <p>12 日常生活で援助を行う際に、コミュニケーションの重要性を認識し、話しかけている。</p> <p>13 話すことや意思表示が困難など特に配慮が必要な人には、個別の方法で行っている。</p> <p>14 利用者への言葉づかいに対する配慮や節度ある接し方がなされている。とくに自尊心を傷つけるような言葉づかい、幼児語の使用、指示的な言葉を慎んでいる。</p> <p>15 利用者への言葉づかいや接遇に関する、継続的な検討や研修を実施している。</p> <p>16 会話の不足している利用者には特に気を配り、日常生活の各場面でも話をしてもらえるようにしている。</p> <p>17 利用者が話したいことを話せる機会を作っている。</p>	<p>小規模型であり、職員は一人ひとりの利用者にゆとりを持って接し、挨拶や言葉掛けをしながら援助を行っている。</p> <p>のべやま全体の接遇委員会にはデイサービスの職員も出席している。方言や親しみのある言葉づかいについて、その場で「～したらいいね」と言い合える職員関係が保たれており、互いに意識化を図りながら、節度ある接し方に努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	2 身体介護	入浴介助、清拭等を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	18	利用者の心身の状況や意向に合わせ、入浴形態・方法を採用し、入浴介助や清拭等の方法を工夫している。	利用者の心身状況や意向・その日の体調等に合わせ、入浴形態・順番や対応方法を検討し適切に支援している。 これまで併設施設の浴室を使用していたが平成23年度より、デイサービス専用が出来、一般浴からリフト浴まであり、それぞれの利用者に合わせて入浴支援を行っている。 入浴時の健康チェックや介助時の安全の確保・水分摂取など適切に行い、寒い土地柄、冬季は特に脱衣室などの温度管理に配慮し安全な支援に努めている。
				19	入浴の誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。	
				20	入浴を拒否する人への誘導や介助方法等を工夫している。	
				21	入浴前の浴室内の安全確認（湯温、備品等）を行っている。	
				22	脱衣室等の室温管理を行っている。	
				23	入浴後は、水分摂取、スキンケアを行っている。	
				24	入浴の可否の判断基準を明確にし、入浴前に健康チェックを行い、必要に応じて清拭等に代えるなどの対応をしている。	
				25	入浴介助を安全に実施するための取り組みを行っている。	
				26	浴槽は、機械浴、リフト浴、一般浴、個浴等、いくつかの種類が用意されている。	
				27	シャワーチェア、その他の介護機器が用意されている。	
				28	利用者が自力で入浴できる場合でも、安全のための見守りを行っている。	
				29	感染症、心身の状況や意向等を踏まえて入浴順の配慮を行っている。	
				30	家庭での入浴を安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。	

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	排せつ介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	<p>31 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、排せつ介助の方法を工夫している。</p> <p>32 排せつの自立に向けた働きかけをしている。</p> <p>33 必要に応じ、尿や便を観察し、健康状態の確認を行っている。</p> <p>34 排せつの誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。</p> <p>35 利用者が気兼ねないように手際よく、必要に応じて声かけを行いながら介助している。</p> <p>36 トイレ（ポータブルトイレを含む）は、衛生や臭いに配慮し、清潔を保持している。</p> <p>37 冬場のトイレの保温に配慮している。</p> <p>38 トイレ内での転倒、転落を防止する等、排せつ介助を安全に実施するための取り組みを行っている。</p> <p>39 おむつ・おむつかバー、便器等は、利用者に適したものが使用できるよう準備している。</p> <p>40 おむつ交換を行う際には、皮膚の観察、清拭等を行っている。</p> <p>41 尿意・便意の訴えやおむつ交換の要望に対して、できる限り早く対応できるようにしている。</p> <p>42 家庭での排せつを安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>排泄の自立支援を大切に捉え、利用者の出来る行為・介助が必要な行為や日常使用している排泄用品等を把握し、介護支援専門員と連携を図り家族等と情報を共有し、同じ支援が出来るように努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	2	移乗、移動を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	43	利用者の心身の状況、意向を踏まえ、できるだけ自力で移動できるよう支援を行っている。	施設の備品としての福祉用具（歩行器等）と利用者がレンタルし使用している福祉用具があり、送迎時に在宅や屋外での使用状況を確認しながら、デイサービスでの活動にスムーズに移行できるよう配慮している。 歩行補助具を使用している利用者を含め自力で移動している方が多く、特に安全面には気を配り事故の無いよう努めている。
				44	移乗・移動の自立に向けた働きかけをしている。	
				45	移乗・移動の介助の安全な実施のための取り組みを行っている。	
				46	使用している福祉用具が、利用者の心身の状況に合っているかを確認している。	
				47	福祉用具に不備はないか等の点検を常時行っている。	
				48	移動に介助が必要な利用者が移動を希望した際に、できる限り早く対応できるようにしている。	
				49	移乗、移動している本人だけでなく、他の利用者の安全にも配慮している。	
				50	車イスや杖などを利用する場合に、移動しやすい環境整備を行っている。	
				51	利用者の心身の状況に合わせた福祉機器、福祉用具を準備している。	
				52	送迎サービスは、心身の負担軽減、利用者の希望、安全に配慮しながら実施している。	
53	家庭での介護を安全、適切に行うため、利用者・家族に移乗、移動に関する助言や福祉用具の利用についての情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。					

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2	褥瘡の発生予防を行っている。	a)	54 皮膚の状態確認、清潔の確保の方法など、褥瘡の予防について、標準的な実施方法を確立している。	併設施設とマニュアルは共有しており、予防に関する指針や発症しやすい人への対応などについて実施方法を明確にしている。 現在対象となる利用者はいないが、入浴時等において職員は常に皮膚の状態を確認し、気になることは看護師等と連携し発生予防に努めている。
			55 利用者の心身の状況に応じた体位変換や姿勢の変換を行っている。		
			56 必要に応じ、マッサージの実施、軟膏等の塗布を行っている。		
			57 傷や皮下組織のずれが起きないように安全に介助している。		
			58 標準的な実施方法について職員に周知徹底するため、研修や個別の指導等の方策を講じている。		
			59 家庭での褥瘡予防を適切に行うため、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。		

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	3 食生活	食事をおいしく食べられるよう工夫している。	a)	60	利用者の希望や好みを聴き、献立に反映させている。	主食(ご飯・パン等)の好みや希望献立を聞き、昼食やおやつに反映させている。温かいご飯を食べて頂くようご飯を盛るタイミングに配慮したり、行事食やご当地食等を取り入れ会話も弾み、美味しく楽しく食べる支援をしている。
				61	食材に旬のものを使用するなど、献立に変化をもたせるよう工夫をしている。	
				62	料理にあった食器を使ったり、盛り付けの工夫をしている。	
				63	適温で食事を提供している。	
				64	利用者の状況に応じた、食堂の雰囲気づくりを工夫している。	
				65	座る席や一緒に食べる人について利用者の意向を聞き、テーブルや席の配置を配慮している。	
A	3	食事の提供、食事介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	66	利用者の嚥下能力に合わせた飲み込みやすい食事(形状や調理方法)を工夫して提供している。	サービス利用時は介護支援専門員から食形態や栄養面、食べてはいけない食品等の情報を得て、デイサービスの職員と厨房との連携を図る等、利用者の状態に合わせて提供している。殆どの利用者が自力摂取できるが、介助を必要とする場合も介助時の基本視点や留意事項に沿って適切に支援している。
				67	利用者自身で行える範囲を把握し、自分でできることは自分で行えるよう支援している。	
				68	できる限り利用者のペースで食べられるように工夫するとともに、利用者の身体に負担がかからないよう配慮している。	
				69	嚥下しやすいようにできるだけ座位をとるなど、利用者の食事時の姿勢に常に配慮している。	
				70	誤嚥、喉に詰まったなど食事時の事故について、対応方法を確立し、日頃から確認、徹底している。	
				71	食事、水分の摂取量を把握し、食事への配慮、水分補給を行っている。	
				72	栄養士や医療スタッフと連携し、利用者の心身の状況に合わせて、栄養面・形態に配慮した食事を提供している。	
				73	経口での食事摂取が継続できるようにするための取り組みを行っている。	
				74	家庭での食事や水分摂取に関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。	

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3	利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	b)	75 利用者の口腔清掃の自立の程度を把握している。	食前は口腔体操を行い、食後は全員歯みがきを行う等、全体では口腔機能の保持や改善に取り組んでいるが、利用者一人ひとりの口腔ケア計画を作成し実施・評価はしていない。 介護予防の視点・健康づくりの視点から、利用者の状態に合わせた口腔ケア計画を作成し、継続的に実施・評価を行うことにより最後まで、食べる楽しみが継続できる支援に繋がって行くことを期待したい。
		76 一人ひとりに応じた口腔ケアの計画を作成し、実施、評価・見直しをしている。			
		77 歯科医師、歯科衛生士の助言・指導を受けて、口腔状態および咀嚼嚥下機能の定期的なチェックを行っている。			
		78 口腔機能を保持・改善するための体操（口腔体操等）を行っている。			
		79 職員に対して、口腔ケアに関する研修を実施している。			
		80 食後に、利用者の状況に応じた口腔ケアおよび口腔内のチェックを行っている。			
		81 家庭での口腔ケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。			

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	4 認知症ケア	認知症の状態に配慮したケアを行っている。	a)	82	利用者の日常生活能力、残存機能の評価を行っている。	認知症ケアに関する学習会が行われ認知症の利用者への関わり方等の理解を深めている。 デイサービス利用時の医療機関からの情報提供書・アセスメントや介護支援専門員との連携に於いては一定の情報収集が行われており、その情報を共有し、一人ひとりの利用者の状況に即した支援を行っている。 評価対象で触れたように現在様式の見直し中であり、認知症高齢者の日常生活自立度の把握やADL（日常生活動作）・IADL（手段的日常生活動作）を含めデイとしての様式を確定していくことにより、今後さらに充実した支援に移行していくことが期待できる。
				83	周辺症状を呈する利用者には、一定期間の観察と記録を行い、症状に合わせたケアや生活上の配慮を行っている。	
				84	あらゆる場面で、支持的、受容的な関わり、態度を重視した援助を行っている。	
				85	利用者が日常生活の中でそれぞれ役割（家事等）が持てるように工夫している。	
				86	職員に対して、認知症の医療・ケア等について最新の知識・情報を得られるよう研修を実施している。	
				87	医療スタッフ等との連携のもと、周辺症状について分析を行い、支援内容を検討している。	
				88	利用者一人ひとりの症状に合わせ、個人あるいはグループで継続的に活動できるよう工夫している。	
				89	抑制・拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合には、必要な手続きをとっている。	
				90	認知症高齢者の家族会等家族支援のための会や、その他社会資源を家族に紹介している。	
				91	認知症の理解やケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。	
92	サービス利用時の様子を家族に伝えるなどして、より良いケアの方法を家族と共有するようにしている。					

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	4	認知症高齢者が安心・安全に生活できるよう、環境の整備を行っている。	a)	93	利用者が安心・安全で落ち着ける環境となるよう工夫している。	季節が感じられるような壁飾りや利用者で作成した作品を掲示し、午睡や休息をしていただくベッドルームも整備しており、小規模型であることや職員の受容的な対応が安心して過ごせる環境となっている。
				94	利用者の行動が抑制されたり拘束されたりすることのないよう、環境に十分な工夫をしている。	
				95	危険物の保管、管理が適切に行われている。	
				96	異食や火傷等の事故防止のため、片付け、清掃が行われている。	
				97	共有スペースも、認知症高齢者が安心して過ごせる環境づくりの工夫を行っている。	
				98	トイレ・風呂等、一目でわかるような表示をする等の工夫を行っている。	
	5 機能訓練、 介護予防	利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	a)	99	一人ひとりに応じた機能訓練のプログラムを作成し、実施、評価・見直しをしている。	機能訓練が必要な利用者には機能訓練計画を作成し機能訓練指導員等が中心となり計画に沿った支援を行い、特に必要としない利用者にも体操を取り入れ身体を動かすことや利用者が興味を持って取り組めるメニューを用意し、職員と一緒に取り組む等の介護予防活動を行っている。 必要に応じて介護支援専門員に連絡を取り、居宅サービス計画の修正や見直しにつないだり、電話や連絡帳を通して関係者と情報を共有し、家庭での生活等に反映させている。
				100	介護予防活動も計画的に行い、評価・見直しをしている。	
				101	日々の生活動作の中で、意図的な機能訓練・介護予防活動を行っている。	
				102	利用者が主体的に訓練を行えるように工夫をしている。	
				103	利用者の状況に応じて、専門職（理学療法士、作業療法士等）の助言・指導を受けている。 ここで「等」は、言語聴覚士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、看護師を指す。	
104	認知症の症状の早期発見に努め、介護支援専門員を通して医療機関等につないでいる。					

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	6 健康管理、 衛生管理	利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順が確立している。	a)	105	利用者の体調変化や異変の兆候に早く気づくための工夫をしている。	<p>迎える時から職員全員が利用者の健康や体調を家族等より把握・確認をしながら対応し、看護師による健康チェック・記録等を共有し、必要に応じては家族や医療機関・介護支援専門員等と連携を図っている。</p> <p>家族とは連絡帳を連携の基本としており、利用者のデイサービスでの様子が記録されているため、サービス変更時などに於いては、この連絡帳が一情報として変更先に於いても活用されている。</p>
				106	利用者の体調変化に気づいた場合の対応手順、医師・医療機関との連携体制を確立している。	
				107	職員に対して、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等に関する研修を実施している。	
				108	体調変化時の対応について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
				109	利用者ごとに看護・介護職員が適切に服薬管理または服薬確認をしている。	
				110	健康状態の記録を行っている。	
				111	迎え時に、その日の体調等について、家族から情報を得ている。	
				112	利用開始時・終了時には、必ず健康チェックを行っている。	
				113	異変があった場合には、家族、医師、または介護支援専門員に連絡する体制を確立している。	
		感染症や食中毒の発生予防を行っている。	a)	114	感染症や食中毒に対する予防対策、発生した場合の標準的な対応方法が確立されている。	<p>施設全体の取り組みとして、感染症の学習を行い、デイサービスとしては持ち込まない・広げない・持ち出さないを徹底し、予防に取り組んでいる。感染症を疑う時の職員の動き等についてのマニュアルを共有化し、可能性ある場合にも注意し、職員や家族がかかった場合の対応方法について文書化されており、職員が媒体にならない予防に取り組んでいる。</p>
				115	職員の健康状態についてチェックし、インフルエンザ等の体調の変化を日常的に把握できる仕組みがある。	
				116	職員や職員の家族が感染症にかかった場合の対応方法が文書化されている。	
				117	職員に対して、インフルエンザ等必要な予防接種について、費用負担を支援し受けさせている。	
				118	感染症や食中毒の発生予防・対応方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
119	必要な手洗器・消毒薬等の設備機器等が設置されている。					
120	家族、来館者への手洗いや手指消毒等の呼びかけをしている。					

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	7 建物・設備	施設の建物・設備について、利用者の快適性に配慮している。	a)	121	建物・設備の点検を定期的に行い、問題点については改善するなど、快適性や安全を維持する取り組みをしている。	設備や・福祉用具等の点検担当者により安全性の確保に努めている。 共有のデイルームの他に休息や午睡のためのベッドルームを有し、ゆっくり休める環境を整え、自立支援デイサービスの利用者の畳の部屋等が配置され、過ごし易い環境が整っている。
				122	備品の点検を定期的に行い、常に故障や不具合、汚れなどがないように維持する取り組みをしている。	
				123	椅子・テーブル・ベッド等の家具、床・壁等の建物について、落ち着けるような雰囲気づくりに配慮している。	
				124	談話スペースを配置するなど、快適に時間を過ごせるよう配慮している。	
				125	利用者が思い思いに過ごせる工夫がされている。	
				126	ベッド、ソファ、畳の部屋など休息に適した環境の配慮がなされている。	

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)	
A	8 家族との連携	利用者の家族との連携を適切に行っている。	a)	127	家族に対し、定期的および変化があった時に利用者の状況を報告している。	<p>村の委託事業であり、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターは一つで、常に介護支援専門員とデイサービスとは双方が日常的に連携を図り、利用者のみならず家族の状況把握もスムーズに行われている。</p> <p>送迎時や連絡帳等を介して、またサービス担当者会議等に於いて利用者の状況を報告すると共に、家族の意向を聞き、必要な情報を提供する等、関係者が一体的に関われる体制が機能している。</p>
				128	家族に対し、サービスの説明をしたり、要望を聞く機会を設けている。	
				129	家族との相談を定期的および必要時に行っている。また、その内容を記録している。	
				130	利用者の状況など報告すべき事項は、必ず家族に伝わるよう伝達方法を工夫している。	
				131	家族（主たる介護者）の心身の状況にも気を配り、必要に応じて介護支援専門員に報告している。	
				132	家族の介護負担が過重にならないよう、家族がどのような方法で介護・介助しているかを把握している。	
				133	家族（介護者）に対し、必要に応じて介護に関する助言や介護研修を行っている。	
				134	家族が必要とする情報提供（福祉サービス、介護に関するテキスト・資料、地域の家族会など）を行い、必要に応じて、介護支援専門員など専門職、関係組織につないでいる。	